



ご挨拶

理事 白川 哲夫

このたび、(公社)日本小児歯科学会から日本歯学系学会協議会の理事に選任されました白川哲夫と申します。宮崎理事長の命を受け、協議会の活動ではおもに政策提言を担当しています。日本小児歯科学会では障害児の歯科医療に関わる諸問題に取り組んでおり、また(一社)日本障害者歯科学会では学術研究の推進について微力ながら職務を全うすべく活動しています。

経歴ですが、昭和57年に北海道大学歯学部を卒業し、大学院で小児歯科学を専攻しました。その後、北海道大学歯学部小児歯科学講座に在籍し、平成14年には北海道大学病院高次口腔医療センターに異動して障害者歯科治療部門を担当しました。平成18年から現在の所属である日本大学歯学部にて小児歯科学講座を担当しています。

歯学協の理事を拝命したのは平成28年度からで、外木常任理事、植田理事に続いて日本大学歯学部で現職3人目となります。歯学協設立の主旨や年間の活動内容等についてはほとんど把握できていませんでしたが、理事就任後に、主にホームページと過去のシンポジウムのプロシーディングに目を通すことで概略を知ることができました。激しい歯科医療変革の時代にあって、歯学協の諸先輩方が辿られた足跡と歯学発展への志、国民の健康・福祉への熱意には敬服するほかありません。

私が検討メンバーの一人として関わっている政策提言については、平成28年2月に昭和大学にて公開シンポジウム「これからの歯科医療を見据えた人材育成の在り方について」が開催され、提言の骨子がほぼ固まっていたので、11月にそれを「歯科における人材育成に関わる提言」と題して提言にまとめ、公開するとともに会員学会宛に配信することができました。

歯学協理事として一步を踏み出したばかりですが、国民に歯学の奥深さと歯科医療の価値を強くアピールできるよう努力したいと考えています。何卒よろしく願いいたします。



ご挨拶

理事 末瀬 一彦

このたび、宮崎 隆理事長のご拝命を受け、本協議会の理事を務めさせていただきます大阪歯科大学 末瀬一彦と申します。私は、現在(一社)日本デジタル歯科学会 理事長、(一社)日本歯科審美学会 副理事長、(一社)日本歯科技工学会 副会長、(公社)日本補綴歯科学会 理事などを務めさせていただいています。本協議会理事の選出母体となります(一社)日本デジタル歯科学会は2010年に設立し、現会員数600名、賛助企業44社で組織され、毎年1回の学術大会と夏季・冬季のセミナー、関連学会との共催シンポジウムなどを積極的に開催する新進気鋭の学会です。また、国際デジタル歯科学会(IADDM)のファンダメンタル会員としても国際的に重要な位置づけにあります。最近の歯科医療におけるデジタル化は急速に進展し、患者に安全・安心・信頼できる歯科医療の提供を行うためにはデジタル技術の活用は必須であります。多くの伝統ある学会によって組織される本協議会におきましても新しい分野の学会として共に日本の歯科医療界を支えていきたい所存です。

一方、私は約20年間にわたり、歯科技工士教育や歯科衛生士教育に携わってまいりました。大学教員、歯科医師としてコ・デンタルの教育に長く携われたことは、私にとりましても誇りであり、多くの示唆を得ることができました。近代歯科医療は、歯科医師だけでは実践できず、歯科技工士や歯科衛生士の専門的な知識・技術とともにチームアプローチを行わなければなりません。多くの学会でも専門士や認定士の称号が設定され、専門性のある歯科医療技術者を養成しています。宮崎理事長のご下命のもと、各学会間での整合性を確立し、歯科医師の専門制度とともに歯科技工士や歯科衛生士の専門士制度をどのようにジョイントしていくかが大きな課題です。私は、このようなミッションを実行していくために各学会における専門士制度の実態を把握し、日本の歯科医療を根底から支える歯科医療技術者の専門性の活用を高めたいと考えています。ご支援よろしく願い申し上げます。

日本歯学系学会協議会理事に就任して

理事 西原 達次



現在、一般社団法人歯科基礎医学会の理事長を務めております。歯科基礎医学会には、歯学研究を支える基礎系研究者が集い、オーラルバイオサイエンスの発展を目指した学術活動を展開しています。そこでは、解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、病理学の7つの分野の研究者が歯学研究の発展を通じて社会に貢献することを目指しています。

本学会は、平成27年度から一般社団法人として活動を開始しましたが、法人化に先立ち、「バイオサイエンスを発信する学会」「外部の評価に耐える透明性の高い学会」「歯科基礎医学の発展に寄与する学会」「臨床へ情報を発信できる学会」等を強く打ち出すことを決定し、歯科界に閉じこもり、唯我独尊に陥ることなく、開かれた学会活動の展開を重視する学会に生まれ変わりました。

先にも述べたように、本学会は、歯科基礎医学の7分野で形成されていますが、このことを強みとするには、学問の多様性を活かした活動をする一方で、それぞれが連携して口腔領域の研究が一体となって、生命科学の発展に貢献していくという強い志と不断の努力が必要です。そのことによって、歯科基礎医学会がオーラルバイオサイエンス研究を通じて社会に貢献できるような学会に成長して、歯学基礎研究を社会に広く発信することができると思っています。このことは、まさに、今、全ての歯学系学会に求められていることと認識しています。

現在のバイオサイエンスの展開を見るに、研究のグローバル化は避けて通れません。次世代の研究者を育成していくうえで、若き研究者が国際感覚を持って研究できる環境整備は必須であり、今後、継続的に諸外国の研究グループとの連携を強化が重要と考えています。私としては、このような状況になか、歯科基礎医学会を取りまとめる立場であることを踏まえて、日本歯学系学会協議会理事としても、歯学研究の更なる発展に向けて貢献できればと思っています。

むすびに、歯学の基礎研究の成果が、トランスレーショナルリサーチ、臨床研究への応用、さらに、歯学研究の社会貢献につながり、歯学研究がバイオサイエンスの分野でカッティングエッジの効いた研究分野として評価されるよう尽力します。あわせて、日本の歯学研究がより高い評価を得る日が一日でも早く訪れることを祈念して、今回の挨拶とさせていただきます。

*日本歯学系学会協議会 平成29年度定時社員総会の開催について

開催日時：平成29年6月22日（木）14：00～14：30

会場：日本歯科大学生命歯学部 100周年記念館 地下1階 九段ホール
（〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20）

*日本歯学系学会協議会 第15回講演会「歯科における需給問題」の開催について

開催日時：平成29年6月22日（木）14：30～15：45

演者：安藤 雄一 先生（国立保健医療科学院）

会場：日本歯科大学生命歯学部 100周年記念館 地下1階 九段ホール
（〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20）

参加費：無料（事前申込の必要はございません。）

歯学協ニュースに対するご意見、ご要望等ございましたら、日本歯学系学会協議会事務局までご連絡下さい。

（一社）日本歯学系学会協議会 事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TS ビル（一財）口腔保健協会内

FAX : 03-3947-8341、E-mail : gakkai18@kokuhoken.or.jp